

今回の演習では、ファイルシステムとシェルの復習をしながら、高機能なテキストエディタである Mule の使い方を学習します。では、Windows 2000 へログオンして、VMSwitch を起動しましょう。

1. ファイルシステムと Shell 1 (TC シェル)

下記のコマンドは、すべて覚えてしまいましょう。忘れていたものがあれば、テキストでしっかり確認しておいて下さい。

<これだけは覚えておけ！>

コマンド使用例	機能
cd	ホームディレクトリへ移動する
cd DIR	作業ディレクトリを DIR に変更する (DIR へ移動する)
pwd	現在の作業ディレクトリを表示する
ls	ディレクトリの内容を表示する
ls -l	詳細表示
ls -a	ドットファイル (隠しファイル) 表示
ls DIR	ディレクトリ DIR の内容を表示する
cp FILE1 FILE2	ファイル FILE1 を FILE2 へコピーする
cp -r DIR1 DIR2	ディレクトリ DIR1 を DIR2 へコピーする
mv FILE1 FILE2	ファイル名 FILE1 を FILE2 へ変更する
mv FILE DIR	ファイル FILE をディレクトリ DIR へ移動する
rm FILE	ファイル FILE を削除する
mkdir DIR	ディレクトリ DIR を作成する
rmdir DIR	ディレクトリ DIR を削除する

2. テキストエディタ Mule

まずは、テキストの第5章をよく読んで、基本操作を頭に叩き込んで下さい。今回の演習では、5.3.1 ~ 5.3.11 を実行してもらいます。どうしても覚えておかなければならないコマンドは以下の通りです。

mule &	mule を起動する。
C-x C-f	ファイルを開く (作成する)
C-x C-d	ディレクトリを開く
C-x C-s	ファイルを保存する
C-x C-w	名前を付けてファイルを保存する
C-g	コマンドを中断する
C-x C-c	mule を終了する

これ以外にも多くのコマンドが用意されていて、文章を作成したり、プログラムを書いたりするのに非常に便利です。詳しくは、テキスト 78 頁以降を参照して下さい。なお、Windows 環境でも Mule やこれに似たソフトウェアを利用できます。プログラムを書く人や LaTeX を使う人には特にお薦めです。

[課題]

- 1) Mule を使って、日本語または英語で、自己紹介、好きな講義とその理由、嫌いな講義とその理由、これまでの演習の感想を書く。
ただし、文章のはじめに、氏名と学生番号を必ず書くこと。
- 2) 作成した文章をファイルに保存する。
ただし、ファイル名には自分の名前を付けること。ファイル名の最後は".txt"とする。(例:kano.txt)
- 3) 保存したファイルを添付書類として、加納へ電子メールで送付する。
ただし、メールの本文にも、氏名と学生番号を必ず書くこと。題目 (subject) は「基礎情報処理演習」とする。メールアドレスは manabu@cheme.kyoto-u.ac.jp です。

kano.txt の例

```
氏 名 : 加納 学 (かのう まなぶ)
学生番号 : 0123456789
自己紹介 :
    化学工学専攻の助教授です。専門はプロセス制御・データ解析です。
    詳しくは、http://www-pse.cheme.kyoto-u.ac.jp/~kano/ を見て下さい。
好きな講義とその理由
    ○○○○
    ~~~~~だから。
嫌いな講義とその理由
    ××××
    ~~~~~だから。
演習感想 :
    簡単すぎて話になりません。もっとハイレベルな演習をして下さい。
```

<UNIX 上のテキストファイルを Windows で見る方法>

1. MULE で
C-x C-k f を実行して、文字コードを *sjis*dos に変換する。
C-x C-w を実行して、別のファイル名で保存する。
2. kterm で
以下のコマンドを実行して、ファイルを Windows で見えるようにする。
> cp filename ../windows
3. Windows で
マイフォルダ内のファイルを開いて、内容が読めることを確認する。